

研究課題名	経会陰エコーを用いた子宮頸管長の評価に関する研究
研究の意義・目的	<p>早産を予測する方法の一つとして子宮頸管長の計測が行われています。一般的には妊娠25週未満で頸管長25mm未満に子宮頸管長が短縮を認めた場合、早産のリスクが上昇するといわれています。現在、経膈超音波を用いて子宮頸管長を計測していますが、経膈プローベを膈内に挿入することが患者様の負担となり検査操作も煩雑です。また、経腹超音波が頸管長短縮のスクリーニングに有用であるという報告もありますが、経腹超音波では妊娠週数によっては子宮頸管の描出が困難な場合もあります。</p> <p>経会陰超音波は経腹超音波と同様に体表外から骨盤内の臓器を描出することができますが、対象臓器が体表より浅い部位に位置するため、画像の描出が経腹超音波よりも鮮明であり子宮頸管長の計測を行うことも可能です。簡便かつ患者様の負担が少ない経会陰超音波により頸管長計測を正確に行うことができれば、早産予測の方法として有用であり、経膈超音波に代わる有用な検査方法となる可能性があります。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2026年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	機関の長の実施の許可日～2025年3月の間に大阪公立大学医学部附属病院で周産期管理を受けられる方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究への参加に同意いただいた場合には、研究までの病歴やその時の治療の状況をあなたの基本情報として登録します。登録する基本情報は以下の通りです。</li> <li>① 基本情報：年齢、身長、体重、診断名、妊娠週数、妊娠回数、出産回数、妊娠方法</li> <li>② 血液検査結果：白血球数、CRP</li> <li>③ 経膈超音波により測定した頸管長及び測定時の胎位</li> <li>④ 分娩週数、児の出生体重、出生時頭周囲長、性別、Apgar score</li> <li>・妊婦健診などで診察を行う際に経膈超音波に加えて経会陰超音波及び経腹超音波による子宮頸管長の計測を行います。画像データは超音波装置に保存しておき、経腹超音波及び経会陰超音波による頸管長の測定を別の医師が診療後に行います。経会陰超音波による結果は診断や治療方針の決定には使いません。</li> </ul>
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院〇〇科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学</p> <p>（担当者氏名）三枝 卓也</p> <p>電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：gr-med-obandg@omu.ac.jp</p>